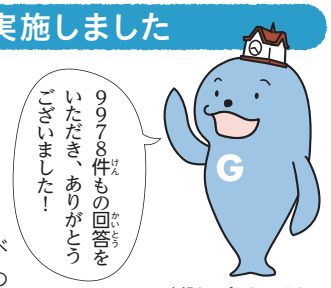
みんなで考える、冬のさっぽろ 第8回

本連載ではこれまで、本市の雪対策が抱える課題や、審議会での検討状況を紹介するとともに、アンケートやワークショップでいただいた意見などを通じて、市民の皆さんと札幌の冬の暮らしについて一緒に考えてきました。今回は、6月に実施したアンケートの結果や8月に実施した審議会で出た意見などを紹介します。

詳細 未来創生担当課 ☎211-2338

雪対策についてアンケートを実施しました

持続可能な雪対策への考えや、昨年度の大雪の対応などについて、市民の皆さんの声をお聞きするために、6/1～30にアンケートを実施しました。

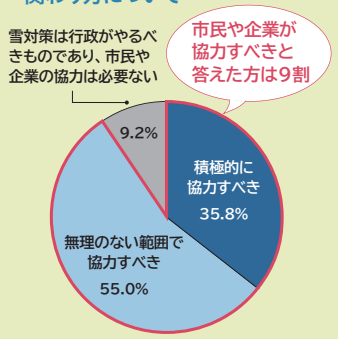


広報さっぽろキャラクター ギュウ太

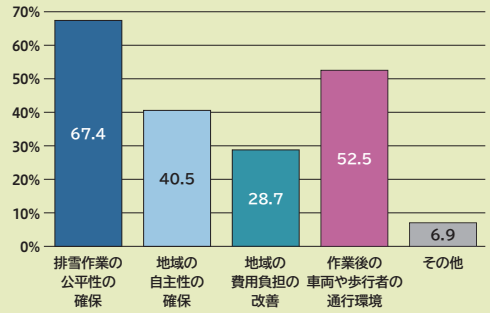
「公平性」が重視されている

9割を超える方が持続可能な雪対策に向けて、「市民や企業が協力すべき」と答えました。また、生活道路の除排雪では「排雪作業の公平性の確保（公共排雪への移行）」が重要と考える方は6割を超えたほか、「作業後の車両や歩行者の通行環境」を重要とする意見も5割を超えました。

Q.雪対策における市民や企業の関わり方について



Q.生活道路除排雪の検討にあたって重要なもの（複数回答可）



自分たちにできることは協力しながら、市民や企業、町内会同士などで支え合う一方で、負担感が公平になるように、行政による公共排雪を求める方が多いという結果になりました。

アンケート結果はホームページに掲載しているほか、雪対策審議会でも報告し、議論の参考として活用させていただきました。

札幌の冬のくらしを考える、市民会議を実施しました

これまでのアンケートやワークショップなどの取り組みを踏まえ、無作為抽出で選ばれた合計94人の市民の皆さんに協力いただき、8/1、8に市民会議を実施しました。市から、雪対策の現状や課題について情報提供した上で、今後の雪対策について議論しました。

それぞれの立場から考える雪対策

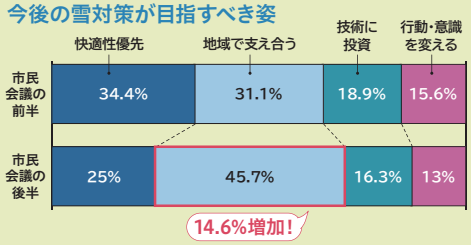
議論では、行政・市民・企業のそれぞれの視点から意見が出ました。

- 行政は雪対策に関する情報発信を積極的に行うべき
- 市民は地域のボランティア活動に協力する
- 市民が除雪に参加しやすい仕組みをつくる
- 行政は企業と連携して先進技術の活用や技術開発を行う
- 企業はテレワークなど、雪に対応した働き方を推進する

議論を通じて変化した意見

市民会議の前半と後半で行ったアンケートでは、情報提供や市民同士の議論を通じて、「地域で支え合う」という考えが一番支持される結果に。人口減少で予算や人手が限られる中、将来何を優先するかを議論したことにより、目の前の快適さだけでなく、協力を重視する方が増えたと推察されます。

今後の雪対策が目指すべき姿



市民の皆さんの意見も踏まえ、審議会での議論を進めています

持続可能な雪対策の在り方を考えるため、市民の皆さんからいただいた意見を踏まえながら審議会や小委員会で議論を重ねています。6/15に開催した除排雪手法小委員会で出た意見も踏まえて、8/5に雪対策審議会を開催しました。ここでは審議会で出た意見を紹介します。

生活道路除排雪の見直し

予算の増加や、冬期の安定した道路環境の維持などの課題があるものの、行政主体の公共排雪への移行に賛同

除排雪全体の省力化・効率化

先進技術の活用に向けては民間企業が挑戦しやすい環境や投資が必要

大雪時の行動変容

市が外出抑制を発令するような一定の強制力がある対応も検討すべき

基本方針を策定予定です

本年度は、雪対策審議会からの提言を受け、基本方針を策定する予定です。また、令和９年度にはこの方針をもとに基本計画を策定予定です。今後も検討状況をお伝えするとともに、市民の皆さんの意見をお聞きしながら、今後の雪対策について一緒に考えていきます。